

《知床ユネスコスクール活動紹介》

羅臼町立羅臼小学校

今年度から「GIGA (ギガ) スクール構想」による「児童生徒に1人1台端末」の学校 ICT 利活用が始まりました。羅臼小学校も、今年から始まりました。

今年度から「GIGA (ギガ) スクール構想」による「児童生徒に1人1台端末」の学校 ICT 利活用が始まり、羅臼小学校も、今年から iPad を使用した授業を積極的に取り組んでいます。

そこで、6年生(16名)が、6月1日に学級として「インスタグラム」のアカウントを取得し、写真の投稿を始めました。

このサイトは、羅臼町の教育指針としてこれまで培ってきた地域学=「知床学」の一環として、子どもたちの感性で1人1人に割り当てられたタブレットを使って、学校生活の中で写真を撮り羅臼町の魅力を発信しています。

フォロワー数は、6月末で300人を超え、「漁船と国後島」を投稿した生徒は、写



真と一緒に「船と国後島です。天気良ければ国後島も見える！コロナが落ち着いたら羅臼に遊びに来てください。」と、文章をタブレットで英訳して日本語とあわせて投稿しています。また、学校風景を撮影した生徒は、「町外や外国の人に僕たちの写真を見てほしい」と話してくれました。

dm を管理する担任の先生は、「自らの視点で魅力を見つけて発信し、郷土に住み続ける選択が生まれる事を期待した」と話しをしてくれました。

生徒たちは、新型コロナウイルス感染拡大で過程や学校以外の人と交流する機会が減っており、インスタグラムは外とつながれるツールにもなり、今後は校外で撮影した写真のアップも検討しているとのことでした。

人口が減少するまちで、様々な学びを「知床学」と「ICT 利活用」で持続可能な開発のための教育を進めています。

